

(様式第 11 号) (第 14 条関係)

令和 5 年度 「みんなの力でつくるまち」 活動支援事業評価報告書

事業名	軽井沢こどものまちプロジェクト
団体名 (連絡先)	こどもまちづくり部 (代表：松浦麻衣子)
総事業費	581,175 円 (うち補助金：250,000 円)

事業内容

8 月の 5 日間、軽井沢町内の小・中学生が学校や学年を超えて集まり、独自通貨「かーる」をつかって仕事をして、お給料をもらい、税金を払ったら、残ったお金で遊んだり、買い物をしたり、起業したり、社会のしくみを体験しながら、たっぷり遊ぶイベントを開催しました。見守りの大人スタッフは口出し手出し厳禁。軽井沢中部小学校を舞台に、子どもたちの自主性に任せた子どもだけのまちをつくりました。最終日には子どもたちに加え、保護者や地域の方も交えたお祭りもコモングラウンズで開催しました。



事業効果

5 日間でのべ 453 人の参加者、うち 88%が複数日参加のリピーターとしてまちを盛り上げてくれました。今回から対象を中学生にも広げたため、小・中・高(スタッフ)が繋がる場に発展し、高学年がリーダーシップを発揮する場面も多く見られました。多様な企業からの材料提供により活動の幅が広がり、昨年を上回る起業家が誕生。また地元企業による食事の提供によって子どもたちのモチベーションの向上が感じられました。また最終日のお祭りでは、子どもに加え保護者、スタッフ、地域の方が交流する機会となり、子どもを中心とした地域の輪の広がりを創出することができました。

【目標・ねらい】

- 子どもの自主性に任せる
- 学校・学年を超えて混ざる
- 興味や得意を生かす
- 生み出す喜び、変えられる実感を得られる場
- 子どもを地域で育む
- 子供を中心に保護者や地域の方が繋がっていく

自己評価(目標達成率)【 A 】

今後の取り組み

「軽井沢の夏休みといえばこどものまち」というような夏休みを象徴する活動にすべく、引き続き活動を継続していきたいと思っています。こどものまちは、大人は口出し手出ししない場。子どもの主体性にすべてを任せ、大人は多くをのぞまず、ただ子どもたちが自分らしく自分の興味やちょっとした勇気と向き合い、失敗したり試行錯誤したりしながら、時にはぶつかり、話し合っ、乗り越えて、化学反応を起こし、自分の手で何かを生み出す喜び、自分の手で何かを変えられる実感を手にする機会にできればと考えています。ひきつづき地域の方々、多くの企業のお力を賜りながら活動を継続していきたいと思ひます。

※自己評価欄は「A」90%以上「B」70~89%「C」50~69%「D」49%以下で示すこと。